

# COOP Calendar

9月号

September 2022

Vol.173



2022年度宮城県協同組合こんわ会委員総会で挨拶する佐々木琢磨会長

## CONTENTS

役員エッセイ ..... 1 宮城県生協連理事 佐藤淑子（みやぎ生協地域代表理事） 「生協の良さを伝えていくこと」	平和のとりのみ ..... 6	適格消費者団体 認定NPO法人消費者市民ネットとうほくの活動 ..... 11
会員生協だより ..... 2 ・みやぎ生活協同組合 ・生活協同組合あいこーぷみやぎ ・松島医療生活協同組合 ・尚綱学院大学生生活協同組合 ・大学生生活協同組合連合会東北ブロック	環境のとりのみ ..... 7	宮城県ユニセフ協会の活動 ..... 12
協同のとりのみ ..... 5	消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動 ..... 8	公益財団法人 みやぎ・環境とくらしネットワーク(MELON)の活動 ..... 13
	消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動 ..... 9	行事予定 ..... 14
	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体 ネットワークみやぎの活動 ..... 10	新聞記事 ..... 15
		資料 ..... 19

## 生協の良さを伝えていくこと

宮城県生協連理事 佐藤 淑子  
(みやぎ生協地域代表理事)



私の出身は長野県で、生協のお店が身近にはありませんでした。東京に住んでいた時に生協のお店を利用したこともありましたが、仙台に来て同じ社宅の仲間に共同購入に誘われてみやぎ生協に加入しました。

子供たちと遊んでいる時に、注文した商品が届くと、ワイワイと商品を分けるのも楽しいひと時でした。その年に幸町店ができるということで盛り上がっていたことも印象的です。

宮城の皆さんにとって生協の関わりが大変強く、そして身近に生協のお店があるということも生協ファンとしては、とても嬉しいことではないでしょうか。私も生協に加入して、委員会活動に参加するようになって、益々生協のことが好きになりました。

みやぎ生協は今年40周年、コープふくしまは90周年を迎えました。長く大切にされてきた生協をこれからも更に多くの皆様に愛され利用していただくために、今までとはまた違った形でのお知らせも加えながら、若い方々にも生協の良さを伝え継承していけるようにしていかなければいけないと思っています。

お店や宅配の利用ももちろんですがそれだけではなく、生協が大切にしている「協同」の理念。助け合うこと、平和で持続可能な社会、安心して暮らせる地域社会のために取り組んでいることなども、多くの皆さんに知っていただきたいことだと思っています。

食、環境、平和、子育て、介

護福祉、消費者問題等々、みやぎ生協でも様々な形で取り組んでいます。宮城県生協連の企画やいろいろな活動をされている団体の貴重な学習会に参加する機会もあります。

様々なことを学び、知ることによって私たち一人一人が考えを持って行動することもできます。

コロナによって多くの人が集まることが難しくなりましたが、自宅やサテライト会場からオンラインで全国の皆さんと繋がったり、現地に行かなくても学べる機会が増えました。

この新しい形を取り入れて、今までとは違った形で多くの方に知っていただいたり、学ぶ機会も増やしていけたら、更に広がるのではないかと思います。身近に感じる生協がたくさんある宮城だからこそ、生協の良さを知る仲間をこれからも増やしていけたらと思っています。



# 会員生協だより

## みやぎ生協

### 地域に広がるフードドライブ

2016年から始まったみやぎ生協のフードドライブは、メンバー（組合員）が一人でも気軽に参加できる社会貢献活動として取り組んでいます。支援を必要としている地域の福祉施設や困窮者支援団体・こども食堂等の寄贈先をあらかじめ決め、ニーズに合わせて寄付食品を集めお渡ししています。

2021年度、こ～ぷ委員会が宮城県内の各エリアの店舗で取り組んだフードドライブでは、のべ48店舗で6,807食を地域の37団体へ寄贈しました。八乙女本

部でも職員を対象に2回取り組み、2,191食を生活困窮者支援団体や児童養護施設などへ寄贈しました。

今年度も、各エリアで取り組みが始まりました。7月に八乙女本部で開催したフードドライブでは1,166食の寄付が集まり、寄贈団体からもコロナ禍の影響から必要な声をいただいています。10月には宅配でも、フードドライブの取り組みに参加できる予定です。

必要なものを必要なところへ届けるみやぎ生協のフードドラ

#### みやぎ生協のFOOD DRIVE



名取西店



八乙女本部

イブは、継続的に続けていくことで一人ひとりが地域の中での社会的セーフティネットの役割を担える取り組みとなっています。（生活文化部 伊藤浩子）

### 被災地スタディツアー「石巻の遺構をたずねる」

みやぎ生協では、東日本大震災の遺構を訪問し、改めて当時の状況や復旧復興の様子を見ることで、支援や防災を考える機会にしようと被災地スタディツアーを行っています。

7月28日（木）に実施したツアーには19人が参加しました。

石巻市の震災遺構「大川小学校」「門脇小学校」の他、「みやぎ東日本大震災津波伝承館」、東松島市震災遺構「旧野蒜駅」を訪問し、語り部の方々のお話やさまざまな展示から、当時の様子や新たなまちづくりなどについて学びました。

また、石巻市内のみやぎ生協文化会館アイトピアに立ち寄り、当時各地から寄せられた支援、発災直後から10年間のみやぎ生協の取り組み、ローリングストックについても紹介しました。

参加者からは、「風化を実感。思い返す良い機会となった」「防災がいかに重要か、改めて意識

した」「知らなかったことがたくさんあった。震災直後、店舗などの運営に尽力いただいた生協職員のみなさんにも感謝」「若い人たちに伝えたい」などの声が寄せられました。

（生活文化部 山田尚子）



④震災遺構大川小学校では「未来を拓く」壁画のお話も伺いました⑤震災遺構旧野蒜駅

## 会員生協だより

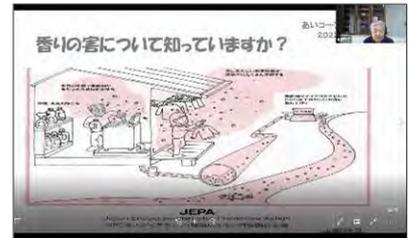
生協あいコープみやぎ

### 学習会「香りの害について知っていますか」

石けん環境委員会で行ったアンケート調査で、香害について詳しく知らない方が沢山いる一方、体調不良を訴える方も多かったです。この結果をうけ、NPO 法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議理事の水野玲子さんによる環境学習会「香りの害について知っていますか？」を7月7日(木)に開催し、オンラインと会場を合わせ39人が参加しました。

講師の水野玲子さんに、組合

員の質問が多かった無香料商品やアロマオイルについての疑問への回答も交え、「香害」について教えていただきました。「無香料」でも原料の香りを消すための添加物の問題や、天然を謳うアロマオイルでも有機溶剤で抽出されている場合があります。天然だから「安全」とは限らないこと、香りを持続させる為にプラスチック製のマイクロカプセルに香料が包まれておりマイクロプラスチック汚染の問題にもつなが



っていること等を学びました。

2021年に5つの省庁が協力し香害のポスターが作成されましたが、まだまだ周知が足りないと思います。これからも香りの害について学習し、有害な化学物質を使わない石けん生活を広めていきます。

(理事 佐藤あきな)

松島医療生協

### 松島医療生協の在宅訪問診療

2020年7月に菅野所長が就任し、所長・事務長の交代、看護師入職と新たな人員体制で、在宅訪問診療に力を入れています。基本的に、外来診療がない午後、医師と看護師がご自宅に伺い診察をしています。

「コロナ禍で入院していても面会できないから可哀そうだ。病院で最後、一人で亡くなる事を考えると自宅に連れて帰って看たい」という家族が増え、在宅訪問診療の実人数は、この2年で1.5倍に増加しました。

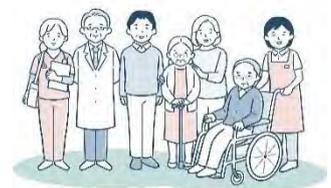
「自宅に連れて帰ってきて、仕事をしながら本当にできるの

か、正直不安だった。限られた時間だったが、先生から言われたように感謝の気持ちをお父さんに毎日伝えられた。夜中でも訪問看護師さんが来てくれ、話を聞いてくれ本当に助かった。家族、娘や孫に最後は見守られ看取れたことに、やり切った感があった。連れて帰ってきて本当に良かった。ありがとうございました。」訪問診療に携わってすぐに、終末期の方の看護に関わることができ、娘さんから当時の気持ちを聞きました。多職種の間わりや連携で、ご本人・ご家族が自宅でどう過ごしたかった

かという想いを少し叶えられた気がしました。

在宅訪問診療に携わり思うことは、どんな形であれ、その方の人生に少しでも自分達が関わったことに感謝するということができます。年を取る大変さも知ることができますが、それ以上に人生の楽しみ方や家族に対しての想いを知ること、訪問診療看護の奥深さを学ぶことができます。

(看護師 師長 石渡さおり)



# 会員生協だより

## 尚綱学院大学生協

### 尚綱学院大学の食堂運営について

今年4月に尚綱学院大学にて、大学生協の食堂をオープンしました。もともと購買店は大学生協、食堂は別事業者が運営しておりましたが、昨年秋に食堂事業者から大学へ「撤退したい」旨の相談があり、大学生協に声がかかりました。

食堂の利用者数からは厳しい経営になる見通しでしたが、購買店での弁当販売の制限等の運営制約があったことや、学生に対して福利厚生を一括して担うために、生協で食堂運営することを決めました。

2月末に前事業者が撤退し、引渡しを受け、そこから1か月弱の短期間の中で準備を進めました。尚綱学院大生協は、東北学院大生協と東北工大生協からの運営協力を得て、支援体制は東北工大から、新規スタッフの研修は東北学院大で準備体制を作り、また両大学生協の厨房備品を活用したことで、少ない投資で運営をスタートさせることができました。

2022年度上期は、日々200人前後のお客様に安定してご利用いただくことができています。



出食カウンターの様子

後期は、利用者数を伸ばすとともに、低コスト運営するための作業改善等を進めていきたいと考えています。

(尚綱学院大学生協

松尾洋介)

## 大学生協東北ブロック

### 「社会的課題交流会」開催

7月9日(土)、大学生協東北ブロックが主催となり、「社会的課題交流会」を開催しました。

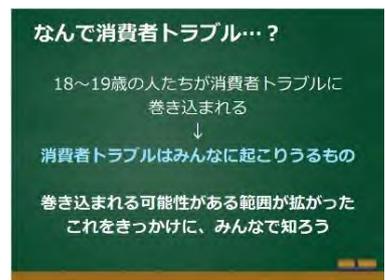
テーマは消費者問題で、社会人になる前に成年者が巻き込まれやすい消費者トラブルについて学べるよう企画を実施しました。参加者は、東北地区の大学生協職員、学生委員合わせ22人が参加しました。

当日は、宮城県金融広報委員会金融広報アドバイザーの進藤恵美さんにお越しいただき、消費者トラブルの中でも特に学生

に身近な、契約、クーリングオフ、クレジットカードの3つをテーマとして、WEB講義形式で配信しました。

参加者のアンケートでは、「自分も加害者になるかもしれない」という意識はこれまでなかった。「もし次回がある場合、金銭管理についてより詳しくお話を聞いてみたい」といった自分の意識に目を向け、さらに学びたいといった感想が多くありました。

社会人になれば契約を結ぶ機会は多く、契約の金額も大きく



消費者トラブルについて学習

なってきます。本会が正しい知識を知り、自分事として考えるきっかけになったことは、とてもよい学びだったと思っています。

(社会的課題推進リーダー・  
仙台白百合女子大学4年  
大槻綾)

# 協同のとりくみ

## 宮城県協同組合こんわ会

### 2022 年度委員総会及び学習会を開催

宮城県協同組合こんわ会（宮城県農業協同組合中央会・宮城県生活協同組合連合会・宮城県漁業協同組合・宮城県森林組合連合会）では、8月3日（水）JAビル宮城会議室において、「2022年度委員総会」を開催しました。協同組合こんわ会からは、構成団体の各会長をはじめ 16 人が参加しました。

「2022 年度委員総会」では、2021 年度活動報告・決算、2022 年度活動計画・予算、2022 年度会費、役員を選任について決定しました。2022年度の活動では、協同組合間連携の展開、「協同組合」組織の発展及びコロナ禍における役割発揮の取り組み、県

産県消運動及び社会貢献活動の推進、地球環境を守る運動等に、積極的に取り組むことを確認しました。また、協同組合こんわ会の会長に佐々木琢磨県農協中央会会長、副会長に冬木勝仁県生協連会長理事・寺沢春彦県漁協組合長・大内伸之県森林連会長を選任しました。

委員総会后、日本協同組合連携機構（JCA）比嘉政浩代表理事専務を講師に、「協同組合のアイデンティティと今後の取組みについて」をテーマに学習会を行いました。世界の 112 か国、300 万の協同組合、10 億人以上の組合員が参加する国際協同組合同盟（ICA）では、協同組合原則を



講師の JCA 比嘉政浩  
代表理事専務

定めた「協同組合のアイデンティティに関する声明」について、現在の社会環境にあわせて協同組合の役割をより深めるための議論が呼びかけられていることについて紹介されました。

各協同組合の活動の情報共有と、コロナ禍をはじめ大きく変化する地域社会への貢献を、協同組合間連携をすすめながらすすめていくことを確認する総会となりました。

（専務理事 野崎和夫）

## アルプス(ALPS)処理水海洋放出に反対する署名

### 学習会「アルプス(ALPS)処理水海洋放出の問題点と今後のとりくみ」

署名数 2022/9/4 現在  
221,531 筆

9月1日（木）学習会「アルプス（ALPS）処理水海洋放出の問題点と今後の取り組み～10分動画をみんなでみよう・広めよう～」が、「アルプス処理水海洋放出に反対する署名」推進事務局より、オンラインで開催されました。40生協・22団体から約300人の参加でした。

はじめに、署名推進事務局長の河野雪子みやぎ生協・コープ

ふくしま副理事長より開会挨拶がありました。次に『ほぼ10分でわかる動画 ALPS 処理水海洋放出問題』が上映され、この問題を考えていただく機会を広げることが呼びかけられました。

その後、福島大学食農学類准教授林薫平さんを講師に「東電福島原発の ALPS 処理水問題ーまだ議論しなければならないことー」について講演いただきま

した。東京電力 VS 漁業者の問題ではなく、廃炉完了までの全期間行政的・社会的な規制が必要な問題であること、福島県漁業の原発事故後の歩みを踏まえると漁業者の想いをどうとらえるか、復興と廃炉の両立の中身が問われていること、性急なタンクの水処分より先を見据えた国民的議論が今こそ必要であること等話されました。

# 平和のとりくみ

「平和とよりよき生活のために」をスローガンに、核兵器廃絶を訴えるとともに、憲法9条を含めた日本国憲法の良さと大事さを学び、平和を守る活動を広げていきます。

## みやぎ生協

### 松本ヒロ・スーパーライブ「憲法くん」

7月22日（金）仙台国際センター・大ホールにおいて、「松元ヒロ・スーパーライブ」を開催しました。

とっつきにくい、むずかしいと敬遠されがちな「日本国憲法」を、面白おかしく切り込む松元ヒロさんのライブを多くの方が楽しみました。

当日はコロナ感染拡大と天候の影響もあり、申し込み人数よ

り少ない305人の参加となりましたが、「憲法くん」は50冊完売し、参加者からは「笑いながらも涙があふれてきました。本当の平和、考えさせられました。今、幸せに生きていることに感謝します」「松元ヒロさんという日本人がいてくれて嬉しいし、ありがたい。私も頑張ります」などの感想が多く寄せられました。



参加者募集のチラシ

### 2022 ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ

8月4日（木）・5日（金）「in ヒロシマ」、7日（日）・8日（月）「in ナガサキ」が、今年もオンラインで開催され、みやぎ生協では5会場（サテライト）で「みんなで視る会」を実施しました。

参加者からは、「語り部さんのお話、当時の様子がよく伝わり胸が苦しくなりました。こんな時だからこそ、多くの人にこの過ちを二度と起こさないでほしい」などの感想がありました。

また「子ども平和会議」も開催され、みやぎ生協からは2人の小

学6年生が参加しました。「戦争の怖さを改めて知りました。ロシアの核爆弾がすごい大きくてびっくりした。他の人の話を聞いて、そんな考えもあるんだなあと思いました」との感想がありました。保護者からは、「今回は参加の機会をありがとうございました。こどもは素直に戦争はいやだ、核兵器は怖いと感じてくれたようです。世界中の人がそう思ってくれば戦争はなくなりますね。次の世代へ伝えようとしてくれている被爆者、



みやぎ生協文化会館アイトピア会場

日本生協連の特設サイトでは、9/30（金）まで見逃し配信中です。  
▶QRコードはこちら



若者、そして生協のピースアクションも素晴らしいと思いました」との感想がありました。  
（生活文化部課長 菅野久美子）



#### 絵本でつながろう「へいわの輪」プロジェクト

126冊の『しあわせ』『へいわ』を感じる絵本のご紹介

「へいわの輪」プロジェクトでは、昨年11月から2月まで『しあわせ』や『へいわ』を感じ心に残った絵本のタイトルとコメントを募集しました。メンバー（組合員）から投稿いただいた絵本126冊をホームページで紹介しています。また、このプロジェクトでは、宮城・福島地区の保育施設263か所に絵本を寄贈しました。 ▶おすすめ絵本の紹介 詳しくはこちら <https://www.miyagi.coop/ehon-project/>



## 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ(略称:消費者懇)【構成団体】宮城県生協連、NPO 法人仙台・みやぎ消費者支援ネット、宮城県地域婦人団体連絡協議会、宮城県消費者団体連絡協議会、みやぎ生協、生協あいコープみやぎ、(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

### 講演会「食品ロスゼロを考えよう～持続可能な社会をめざして“今”できること～」

食品ロスの問題は、SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の中でも解決すべき課題の1つとされています。日本政府も、国内で発生する食品ロスを減らすことは重要な課題であるとして、2019年に「食品ロスの削減の推進に関する法律」を制定しました。食品ロスの問題は、地球温暖化にも大きく関係しており、食品ロスや食品廃棄物の処理に伴って発生する温室効果ガスは、世界全体で排出される温室効果ガスの約8%を占めると言われています。まだ食べられる食品を捨てて、限りある資源を無駄にすることで、地球環境を悪化させ、将来的に私たちの生活から豊かさを奪っていくことになるかもしれません。

コロナ禍にある新しい生活様式の「今」、消費者として何ができるか、何をしたらいいのかを考えることを目的に講演会を開催しました。

7月19日(火)フォレスト仙台2階会議室において、食品ロス問題ジャーナリストの井出留美さんを講師に、「食品ロスゼロを考えよう～持続可能な社会をめざして“今”できること～」と題しご講演いただきました。

オンライン併用で開催し176人が参加しました。

ご講演では、食品ロスは、まだ食べられるにもかかわらず、捨てられてしまう食品を指す。日本の食品ロスは年間522万トン(2020年度農林水産省・環境省推計)で、内訳は、家庭47%(247万トン)、事業者53%(275万トン)。国連世界食糧計画(2020年実績)の年間食料援助量420万トンの1.2倍に匹敵する。食品ロスと気候変動は深く結びついた問題。食品ロスは経済・環境・社会に負荷をかけ、雇用や教育、福祉、医療など、様々な機会を奪う。日本においては、食品ロスとして捨てられてしまう食品を、少しでも十分な食事にありつけない人々へと回し、無駄をなくす必要がある。食品ロスを減らしつつ売り上げを上げている事業者、規格外の農産物を活用し加工品の生産に取り組んでいる事例などの紹介がありました。

また、私たち消費者が今日からすぐにできる食品ロスの取り組みの事例として、すぐに使うものなら買い物際には「てまえどり」を、賞味期限について正しく理解することが必要、ローリングストック、野菜を使い切



講師の井出留美さん

るなど具体的に紹介されました。世界の医療関係雑誌に、気候危機が人間の健康をも脅かしていると発表されたこと、この危機的状況に食品ロスが大きく関わっていることを多くの方々に知らせることが必要であるとのお話がありました。

参加者からは、「一人一人が考えて行動に移すことが大事だと感じました」「水のペットボトルの賞味期限が蒸散で内容量が減る為、設定されていることを初めて知りました。フードロス削減に向けては、まだまだできることがたくさんあることを学ぶことができました」「これまで、食品ロスは『わが家の家計費がもったいない!』ということだけを思っていました、税金を使って焼却処分しているとか、その燃焼によって地球温暖化を激化しているというような大きな視野を与えていただき、良いお話でした」などの感想が寄せられました。

(事務局長 加藤房子)

## 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動

消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城(略称:消費税ネット)は、今以上の消費税率引き上げに反対する一点で集まった、宮城県内の生活者・事業者の個人・団体で組織されたネットワークです。会員数は、団体 27、個人 64 です。(2022 年 3 月現在)

### 2022 年「消費税アップ反対川柳」の受賞作品決定

消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城では、2004 年から消費税川柳を募集し、『消費税増税反対!』の願いを込め、仙台七夕に参加し吹流しや七夕飾りに入賞作品を展示しております。

2022 年度は、消費税川柳に会

員や県外などから、昨年を上回る 1,456 句ものご応募をいただきました。ご応募いただいた作品の中から世話人会において、大賞作品 1 点、特別賞作品 2 点、入賞作品 10 点、宮城県民賞 10 点を選出いたしました。

入賞作品 23 句等を書き込ん

だ「消費税川柳七夕」を、3 年ぶりに 8 月 1 日(月)~8 月 8 日(月)まで展示しました。

多くの方々からのご応募に、心より感謝いたします。

(事務局 加藤房子)



**大賞** 無くそうよ 世から戦火と 消費税

**特別賞** 使い道 よくわからない 消費税

**特別賞** いつの日か 消費税ゼロ コロナゼロ

**入賞** NO WARと NO 税願う七夕に

消費税 格差社会の 背中押す

消費税 家計に重い 副反応

増税で 持続不可能 我が暮らし

重いなあ 買い物かごの 中の税

軽い気が 全然しない 軽減税

消費税 家計は許容 してません!

税率が 上がれば下がる 出生率

加えたい SDGs に 減税を

値上げラッシュ 時限的でも 減税を

**宮城** 年金に 消費税分 入れてよね

**県民賞** 円安が 税収増に 大貢献

血税を 湯水のように 使う国

増えている シミ・シワ・シラガ 消費税

所得無し それでも10パー 税負担

導入後 改善されたか 消費税

消費税 止めて景気の ワクチンに

消費税 あまったときは 返さなきゃ

いつまで続く コロナワクチン 消費税

星降る夜 一緒に願う 税ダウン



吹流し型七夕  
(一番町四丁目商店街アーケード)



行燈型七夕  
(ぶらんどーむ一番町商店街)

## NPO 法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)は、良質な介護・福祉サービスの提供と健全な事業運営のため活動しているネットワーク組織です。会員数:正会員団体 18、個人正会員 18、団体賛助会員 4、個人賛助会員 64(2022年6月現在)

### 燃料・原材料費等の物価高騰に関するアンケート調査を実施し 国、宮城県、仙台市へ要望書を提出

電気・ガス・燃料費、食材費等は、2021年から値上がりをはじめ、2022年はさらなる値上げとなっています。今後も、ロシアによるウクライナ侵攻や円安の影響等、複合的な要因によってこれまで以上の値上がりが想定されています。

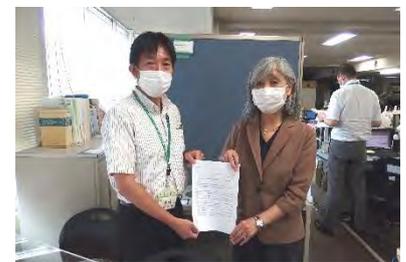
2022年に入ってからの物価高騰が、社会福祉事業所運営にも深刻な影響を与えていることから「燃料・原材料費等の物価高騰による影響に関する2022年度緊急アンケート」(以下2022緊急アンケート)を実施し、当法人会員団体14法人・団体53拠点(福祉施設・事業所)の現状をまとめることができました。

2022緊急アンケート結果から、燃料・原材料費等の物価高騰は社会福祉事業の経営を大きく圧迫していることが明らかとなりました。この間の事業所の自己努力のみの対応は限界をこえており、サービス提供体制にも大きく影響するものと考えます。

介護・福祉ネットみやぎでは、社会福祉事業所の現状を踏まえ、事業者の安定的な事業運営の施策と必要な人が安心して社会福祉サービスを受けられるよう、8月1日(月)内閣総理大臣をはじめ関係大臣等へ、8月4日(木)宮城県知事及び仙台市長宛てに「燃料・原材料費等の物価高騰に伴う社会福祉事業所へ



宮城県保健福祉部長寿社会政策課  
後藤正樹課長



仙台市健康福祉局保険高齢部  
伊藤秀晴部長

の緊急支援に関する要望書」を提出しました。(後掲)

### 2022年度「第2回実務担当者会議拡大研修会」

7月14日(木)フォレスト仙台4階4A会議室において、加藤誠さん(医療法人社団東北福祉会介護老人保健施設せんだんの丘統括部長)を講師に、『介護現場のクレーム対応法について～カスタマーハラスメントから職員を守るために～』と題して開催しました。実務担当者、関係団体、調査員等、オンライン視聴を含め、88人が参加しました。

近年、介護事業者や介護施設

に、理不尽なクレームを寄せる「モンスタークレーマー」の利用者や家族が増加しています。

介護職員等に対するハラスメントが、担当した職員の様々な疾患や離職の原因になる可能性もあり、円滑な介護事業所の運営の妨げにもつながりかねません。なぜトラブルに巻き込まれるのか、そのうえでどのような解決策を講じるべきなのか、考える機会として研修会を開催しました。

ご講演では、「職場の環境整備をすることで、利用者や家族の満足度が向上し、カスタマーハラスメントの低減にも繋がる。日頃から小さなコミュニケーションを大切にすることが大事である。それが職員の安全確保と、働きやすく、円滑にサービスを提供できるような環境づくりにつながります」と強調されました。(事務局長 渡辺淳子)

## 適格消費者団体 認定 NPO 法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほく(略称:ネットとうほく)は、消費者被害の未然・拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体・関係諸機関・消費者問題専門家等と連携し、消費者被害の調査・研究・情報収集、是正申入れ等の活動を行っている内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

### 2022年度「第2回ネットとうほく消費者被害事例ラボ」

#### ～消費者契約法とサルベージ条項について～

7月21日(木)第2回消費者被害事例ラボが開催され、オンラインを含む24人が参加しました。

今回は「消契法とサルベージ条項について」をテーマに、北九州市立大学の丸山愛博准教授が解説しました。サルベージ条項とは、「法律で許容される範囲において一切の責任を負わない」といった、本来であれば全部無効となるべき事項に、その効力を強行法規によって無効とされない範囲を限定する趣旨の条項です。例えば、「事業者の損害賠

償責任は〇〇円を限度とする」という規定の場合、消費者契約法8条により条項全部が無効になるのを補充するために定めた契約条項をサルベージ条といえます。

問題点としては、「法律上許容されている限り」という留保文言によって、契約条項のうち有効とされる範囲が不明確となり、消費者側が本来できるはずの権利行使をしなくなってしまう点があると話されました。

その後の意見交換会では、条項が不明確になっているところ

北九州市立大学  
丸山愛博准教授



が問題かと思っていたサルベージ条項にあたる条項でも、有効か不当かを振り分ける必要があるのか。「不透明」より「不明確」を問題とするほうがよいのか、など様々な意見が出されました。

### 2022年度「無料電話相談会」開催中!

2021年度に引き続き、弁護士による消費者被害、消費者トラブルの「無料電話相談会」を、7月より2023年2月まで毎月第1金曜日の13時から16時まで行っています。2回を終え、様々な消費者トラブルの相談が寄せられています。

ネットとうほく無料電話相談

では、宮城県外の東北地方在住の方からの相談、情報提供も可能です。仙台弁護士会に所属している弁護士が、皆様からの消費者トラブルをお受けします。

なお、県内消費生活センターでは自然災害に便乗した悪質な修理業者に注意するよう呼び掛けを行っています。「火災保険金

が下りれば自己負担なく工事ができる」「保険の申請は無償で代行する」などと勧誘されても、すぐに契約せず、複数の業者から工事見積りを取ったり家族などに相談するよう心掛けましょう。

(事務局 金野倫子)

無料電話相談会  
☎ 022-341-2010

#### 講演会のお知らせ

#### テーマ「消費者問題と公正取引委員会」

日時 2022年10月22日(土) 10:30~12:30

会場 仙台弁護士会館 4階 ホール

定員 会場50人 Zoom100人 参加費無料

主催 消費者市民ネットとうほく

私たちの暮らしの中で、公正取引委員会の活動が深く関わっています。公正な競争環境が整備されることは、消費者の生活、市場経済にとって必要なことです。

最近話題となっている「おとり広告」問題、不当表示などの景品表示法や競争のはなし、消費者に身近な違反事例について、公正取引委員会の役割などを交えながら、消費者のみなさんが賢い商品の選択ができるよう、独占禁止法・景品表示法について学びませんか?

◎講師/大吉 規之さん(公正取引委員会事務総局東北事務所取引課長)

## 宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。宮城県ユニセフ協会は「協力協定」を締結し、県を代表するユニセフ活動の拠点として、ユニセフの広報・募金活動を実施しています。会員数:一般・学生 173、団体 6(2021年12月現在)

### 「夏休みユニセフ教室～外国コイン仕分けボランティアを体験しよう」開催

7月30日(土)みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、「夏休みユニセフ教室～外国コイン仕分けボランティアを体験しよう」を開催し、小学生の親子や中学生、ボランティアなど25人が参加しました。

ユニセフ外国コイン募金は、みなさまからお預かりした外国コインや紙幣を通貨別に仕分け、世界の子どもたちの支援に使用される募金です。

今年は宮城県ユニセフ協会やみやぎ生協のお店に外国コインをお持ちになる方が多く、当日

仕分けた外国コインや紙幣は、日本円で換算すると345,618円でした。また、12,496円のユニセフ募金が寄せられました。

参加した小学生からは、「今日仕分けた外国コインが世界中の子どもたちのためになると思うと、コイン一枚一枚がとても重要なものだと感じました」「ユニセフの活動が少し身近に感じました。もっと沢山のの人にユニセフの活動を知ってもらいたいです」と感想が寄せられました。

熱心に外国コインを仕分けする参加者▶



### ユニセフ「アフリカ栄養危機緊急募金」

アフリカでは今、干ばつや紛争を背景とする大規模な食料危機が発生し、何百万人もの子どもたちが、栄養不良や感染症などで命の危険にさらされています。

とりわけ、「アフリカの角」地域(アフリカ大陸東部地域)で暮らす子どもたちとその家族が置かれている状況は、非常に深刻です。

ウクライナの紛争も、アフリカでより多くの家庭が窮地に立たされる要因となっています。燃料価格の上昇と小麦の輸入の減少に伴って食料不安は悪化しています。特にエチオピアは、小麦の67%をロシアとウクライナから輸入しており、緊急の支援が必要となっています。

ユニセフは危機を食い止め多くの幼い命を守るために、アフリカ栄養危機緊急募金を設置し、国際社会に一丸となって取り組むよう、連帯と資金協力を要請しています。(事務局長 大友千佳子)

アフリカ栄養危機緊急募金にご協力をお願いします。



詳しくはこちらから▶

URL <https://www.unicef.or.jp/kinkyu/africa2019/>

QRコード



## 公益財団法人 みやぎ・環境とくらしネットワーク (MELON) の活動

みやぎ・環境とくらしネットワーク(MELON)は、緑と水と食をとおして暮らしを考え、地球と地球環境の保全に寄与するために、多くの市民、知識人、協同組合、企業、団体で作られた環境 NGO です。会員数:個人 417、法人 54、任意団体 8(2022 年 8 月現在)

### 楽天生命パーク宮城「サステナブルデー」にブースを出展

球団創設以来、MELON が環境活動のサポートをしている株式会社楽天野球団よりお声がけいただき、埼玉西武戦の 7 月 10 日(日)に開催された「サステナブルデー〜見て、触って、体験してサステナブル・スタジアムを学ぼう〜」にブース出展しました。イベントでは、ペットボトルツリーやユニフォームリサイクルプロジェクトの展示、自転車発電による体験等が行われました。

MELON のブースでは、地球温暖化問題の普及啓発を目的に、世界の CO<sub>2</sub> 排出に関する展示と排出されるエネルギーの重さを体験する「エネルギーのかばん」コーナーを実施しました。

「エネルギーのかばん」とは、1 人が 1 日で消費するエネルギーの量を石油の重さに換算して



㊤ブースには 150 人が来場 ㊦「エネルギーのかばん」体験コーナーに参加する親子

見える化したもので、実際のかばんの中身は石油と同じ重さの水が入ったポリタンクです。このかばんを日本と中国、アメリカの 3 か国分の重さを用意し、来場者の方にそれぞれ持ってもらい、どれが日本か当ててもらいました。一人当たりの一日の消費エネルギー量は、国全体のエネルギー消費量と人口が関係してきます。参加者は、国のエネルギー使用量の順番はなんとなくわかって、人口の違い

に迷われる方が多かったようです。子どもたちはどの国の「かばん」も、けっこうな重さであることに驚いていました。

気候変動をはじめとする環境問題が危機的な状況に近づきつつある中で、株式会社楽天野球団のように一般市民への影響力の強い事業者が、こうしたイベントに取り組むことはとても有効です。今後もこのような機会を生かして、有意義な活動を続けていきたいと思ひます。

### 「犬猫熱中症対策セミナー」開催

8 月 6 日(土) オンラインにて、犬猫熱中症セミナーを開催し、25 人が参加しました。気候変動がますます激しさを増す中で、ペットの熱中症対策という MELON がこれまで取り上げてこなかった視点のイベントを検討し、今回開催に至りました。

講師の岩手大学農学部共同獣医学科の山崎真大教授から、体

の小さい犬は路面からの熱を受けやすいので散歩の時間等に注意が必要であることや、家の中での犬猫の快適室温は 25~26℃であること、毛の長い品種は高温多湿の日本では皮膚病に注意が必要など、飼い主がしっかり気を遣うべき事柄についてお話いただきました。

毎日一緒に暮らす犬猫は、飼



い主にとっては家族の一員です。我々自身と同じように、しっかりと熱中症対策を考え、大事なペットが体調を崩さないよう気をつけてください。

(事務局長 小林幸司)

# 行事予定

※新型コロナウイルス感染拡大によっては、内容の変更または中止する場合があります。



## ■集会テーマ（案）

- 一、消費税負担の軽減、格差社会是正のための貧困対策や社会保障の充実を求めます。
- 一、食品の安全性確保と食料自給率の向上を求めます。
- 一、すべての原発を廃止し、自然エネルギーを中心としたエネルギー政策へ転換し、温室効果ガス削減など気候変動に向けた対策を求めます。
- 一、原油価格・食料品価格等の高騰による灯油・物価高への行政の施策強化を求めます。
- 一、「平和とよりよき生活」のため、核兵器廃絶の実現と憲法を守りくらしに生かすことを求めます。
- 一、国際社会が対話と外交を通じた最大限の努力を行い、一刻も早いウクライナへの軍事侵攻の中止を強く求めます。

## ■リレーアピール

「核兵器のない世界の実現に向けた取り組み」

核兵器廃絶ネットワークみやぎ

代表 木村緋紗子さん

「大学生の食を支える取り組み」

学生支援団体はぐね

代表 狐野彩人さん（東北大学3年）

「気候変動対策のために今考えること」

一般社団法人 日本キリバス協会

代表理事 ケンタロ・オノさん

## ■コンサート

「音楽で幸せなひとときを♪」

演奏 杜の弦楽四重奏団

## 「憲法9条を守り生かすみやぎのつどい 2022」

日時 2022年11月3日（木・祝）開演 13:00

会場 仙台サンプラザ 大ホール

仙台駅から徒歩12分・JR仙石線榴ヶ岡駅下車すぐ

講演／メディアの現場から見る戦争と平和・憲法（仮題）

講師／金平茂紀さん（ジャーナリスト、TBSキャスター）

対談／金平茂紀さん & 池田香代子さん

（ドイツ文学翻訳家、九条の会世話人）

主催／みやぎ憲法九条の会

TEL022-728-8812・FAX022-276-5160

<http://miyagi9jou.sakura.ne.jp>

E-mail:info@9jou.jp

共催／宮城県内九条の会連絡会

※参加費無料！どなたでも参加できます。